

校長室から平成31年3月22日

平成30年度が終了します

本校へのご支援ありがとうございました

本日で平成30年度の教育活動が終了いたしました。それぞれの学年の生徒達が大きく成長している姿を、大変うれしく思います。私は、今年度、長町中に赴任しましたが、生徒達の取り組みに自分自身も励まされ、生徒達の成長に驚きと喜びを感じ、生徒達の抱えている課題に、様々な事を考え、彼らから学び、一緒に生活できる喜びを実感しております。

1年間の生徒達の成長は大変目覚ましく、1年生は入学当時とは大きく変化しました。きっと、先輩達の取り組みに学び、驚き、「自分達もあのようにならなければ」という心も芽生えたでしょう。部活動の厳しさや楽しさも知ったことでしょう。人間関係の難しさも経験し、苦しんだ事もあったでしょう。学習への取り組み方も学んだと思います。しかし、大切な事は、生徒一人一人が努力したからこそその成長だと思います。4月には、新入生が仲間入りし、彼らは中堅学年になります。春休みは、ほんの数日しかありませんが、しかし、この期間でぐっと大人びてきます。それは、先輩になる自覚が芽生えるからかもしれませんし、思春期特有の成長かもしれません。

2年生は、様々な経験を積み、もうすでに最上級生の自覚が芽生え、実際の行動に結びついています。とてもうれしく思います。今後の1年間でさらに大きく成長してほしいと思いますし、彼らの明るく、謙虚な姿勢を見ていると、大いに期待できるのではないかと楽しみにしています。

生徒達は、毎日楽しい事ばかりではないと思います。登校する時もちょっと渋ってしまう日があると思います。浮かない表情で登校してきたのに、私達に会うと「おはようございます。」と、にこりと表情を変える場合もあります。先日、朝早く登校する生徒数名とモール周辺の路上で会いました。後ろを歩いていた私が、「おはよう」と声を掛けると、とても驚いたような表情でしたが、「あっ、・・・おはようございます。校長先生、こんなに早く学校に来るのですか。」と笑顔で話しかけてくれました。きっと気を遣っているのだろうなと思います。とても健気です。

日常の学習や部活動、委員会活動だけではなく、毎週木曜日になると、清掃ボランティアでゴミ拾いをしながら登校してくれる生徒も多くいます。ボランティア活動に積極的に参加してくれる生徒もいます。参加するきっかけや理由は、きっとそれぞれでしょう。

震災当時、私の父方の実家周辺が大きく津波の影響を受けたため、私自身も震災ボランティア活動にほんのわずかな期間、参加しました。その時、ある大学の先生のゼミの学生達と行動を共にした事があり、大型バスで一緒に被災地に向かいました。学生達は、状況がよく理解できていなかったと思いますし、想像する事も難しかったと思います。行きのバスの中では、笑顔が見られ、元気でした。しかし、被災地についての瞬間、表情がこわばりました。そして、何をしたいのか分からず、おどおどしていましたが、やはり若さはすごいもので、てきぱきとボランティア活動に参加し、大きな戦力となりました。夕方になって、被災地の方々が別れ際に「また来てね。あなた達が来てくれると本当に助かるよ。」と握手され、感謝され、最後は互いに涙しながらお別れしました。帰りのバスは全員が無言でした。話しかけてみると「僕たち、何か間違っていました。被災地支援はそんな簡単な事じゃないですね。」と考え込んでいた学生がほとんどでした。そして、「明日も行ってみる？」と聞くと「明日からは、覚悟を決めて行きます。」と話してくれました。翌日も私は同行しましたが、前日、ボランティア活動に参加していた学生さんが全員そろっていました。

わずか一日で彼らの目つきや態度は大きく変わっていました。「僕たち、何か間違っていました。」という言葉は、それぞれの意味があり、それぞれの思いがあったのでしょうか。この学生さん達の中から、その後、被災地でのNPO活動に継続して参加している方もいます。今も、被災地に寄り添い、ずっと活動して、志高く頑張っている方もいます。

ボランティア活動や自発的な活動に参加する事だけではなく、何か物事を始めるきっかけは、最初は何気ない動機なのかもしれません。時には、打算が働く場合もありますよね。「将来、何かの役に立つのではないか。」「ゼミの単位が取れるかもしれない。」「これをやると何か有利になるかもしれない。」しかし、人が動き始めたり、何かを変えたりしていくとき、高い志を持っている場合だけとは限らないでしょう。逆に、動機が薄い中で何かを始める場合も多いのかもしれません。でも、私は、それでいいのだろうなとも思います。実際に経験しながら意識が変わり大きく成長していく生徒達や教え子達を数多く見続けてきたからです。

プロ野球で活躍して有名になったある選手は「活躍すれば、お金が儲かるだろう、女性にもてるだろう、というのが一番でした。でも実際、野球に打ち込み、多くの観衆の前でプレーしながら、意識が変わりました。自分のプレーを見に来てくれる方々に恥ずかしい姿は見せられない。特に子どもには、自分を見てがっかりしてほしくない。普段の身だしなみも生活も大きく変わりました。プロ選手とはどういう存在か、少しずつ分かってきました。」と話していました。私は、プロ野球選手になった事自体が元々、努力のたまものだと思いますが、人の気持ちや行動は経験を積みながら、形を変え、やがて人格が出来上がっていくのだろうと思います。

今、中学校生活で頑張っている生徒達も、9教科の中で、何かに心動く事があるかもしれません。学校行事をとおして何かに目覚めるかもしれません。委員会活動を地道に取り組みながら自信をつけていくのかもしれません。ボランティア活動に何気なく参加して、やがて自信をつけていくのかもしれません。特に若い世代は、伸びしろが大きいので、多様な機会や役割、趣味や得意な活動に接する事で、変わっていくのだと思います。私達は、そのような機会や居場所を意図的に提供し、彼らの内にあるものを引き出す事が役割なのでしょう。学校だよりでもご紹介しましたが、教育学者のウィリアム・ウォードという方は、次のように言っています。「平凡な教師は言うて聞かせる。(教える) 良い教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。(例を示す) しかし、最高の教師は子どもの心に火をつける。」この言葉は、時には、教師を「大人」に言い換えてもよいのではないかと思います。

通信票「かけ橋」をご覧になって、お子様方の得意、不得意が少しずつ明らかになっていくと思います。私は、かつて、自分の子どもの通信票を見て、「苦手なものを克服しなさい。」とよく話していました。しかし、よく考えてみると、人間は苦手なものに対してのハードルは極端に高く、すぐには実行できない事が多くあります。苦手なものに向き合って取り組み始めるというのは、相当なエネルギーが必要ですよね。私自身も苦手な事が多くあり、克服するのは本当に大変な事ですし、自分で気付かぬふりをしている場合もあります。その方が楽だからです。だからといって、ずっとそのようにはできないでしょう。私達ができるのは、どうしたら苦手を克服できるようになるかを一緒に考え、工夫する手立てを共に考えていくことなのかもしれません。

1年間の中学校生活が終了しました。どうしたら、生徒の心に火をつけられるのか、どうしたら楽しく充実した生活ができるのかを保護者の皆様と共に考え続けていきたいと思います。

1年間の保護者の皆様の温かいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

新年度、また、長町中学校のすばらしき生徒達が元気に学校に戻ってきて、共に生活できる事を楽しみにしております。